

【各論】

3. 糖尿病における急性細菌感染症

村前 直和 *Naokazu Muramae* (神戸大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科)

廣田 勇士 *Yushi Hirota* (神戸大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科助教)

小川 渉 *Wataru Ogawa* (神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学教授)

● key words 糖尿病／感染症／敗血症

はじめに

糖尿病患者では、非糖尿病患者と比べて肺炎 (1.75倍)、尿路感染症 (3.03倍)、皮膚感染症 (2.43倍)、敗血症 (2.40倍) などさまざまな感染症での入院リスクが高い¹⁾。糖尿病患者の感染症の罹患/増悪リスクの上昇には多くの要因が関与する。高血糖は遊走能、接着能、貪食能など好中球のさまざまな機能を障害し²⁾、末梢の動脈硬化に伴う循環不全は、局所の相対的虚血や低栄養、抗菌薬の病変部への到達率の低下などを介して感染の重症化に関わる。糖尿病患者にみられる神経障害も感染症のリスク増加と関連している。神経因性膀胱による排尿障害は尿路感染症の、胆嚢の収縮機能低下は胆嚢炎の、下肢の末梢神経障害は壊疽の直接的なリスクとなる。

わが国における糖尿病患者の感染症の内訳は呼吸器感染症が41%と最多で、尿路感染症 (24%)、皮膚軟部組織感染症 (17%) が、これに続く (図)³⁾。近年、日本人の死因に占める肺炎の割合は増加しているが、2001~2010年の糖尿病患者を対象とした死因調査でも、感染症が死因に占める割合は17.0%と1991~2000年の14.3%より増加してお

り、糖尿病患者の感染症管理の重要性は増しつつあるといえる⁴⁾。

本稿では、糖尿病患者を診療する上で日常的によく遭遇する細菌感染症について述べるとともに、比較的稀ではあるものの糖尿病と関連性が深い特殊な感染症についても概説する。

I. 日常診療で留意すべき感染症

1 呼吸器感染症

わが国での感染症による死亡者の中では、どの年代においても肺炎による死亡者が過半数を占め、さらに年齢が上がるほどその割合は高くなる⁴⁾。糖尿病患者は健常者と比べて肺炎による入院リスクが高く、HbA1c 7.0%では1.22倍、HbA1c 9.0%では1.6倍と、血糖コントロールの悪化に従いリスクが上昇する⁵⁾。また、入院時の血糖値が250mg/dL以上の群では、それ未満の群と比べて、入院後30日以内の死亡リスクが約1.5倍高いとの報告もある⁶⁾。しかし、これは感染症が重篤であれば、より血糖が上昇しやすいことを反映した結果かもしれない、厳格な血糖管理と肺炎の転